

函館版

2019年1月25日

【発行】

日本平和委員会
東京都港区1-4-9

NO.375



【函館版】

函館平和委員会
函館市湯川町2-29-
13 徳永気付
Tel.0138-57-5775

第3種郵便物許可
1950年12月16日

函館平和委員会会報

年頭にあたっての「挨拶」
危険なオスプレイ訓練を許さない北海道と函館を！

会長 田中邦明

新年あけましておめでとう
ございます。会員の皆様はど
のような新年をお迎えでしょ
うか。昨年九月沖縄では翁
長さんを引き継ぐ玉城デニー
知事が誕生し、野党共闘の力
を大いに発揮して暗闇に希望
の光を灯しました。一方、年
末国会では国民生活を根底か
ら覆す法案が次々と強行採決
され、安倍政権は辺野古新基
地建設中止を求める沖縄県民
の声と知事の要請に耳を傾け
ず、十二月十四日から姑息
な手段で無法な埋め立て工事
を強行し続けています。国民
と国会を愚弄し、虎視眈々と
改憲をねらう強権的な安倍政
権は一刻も早く退陣させねば
なりません。年頭にあたり、
そのことを切に願うところで
す。

我が国に限らず、「新自由

主義」の暴風が吹き荒れる国々
でも、自由・平等・博愛と正
義を求める運動や現象が次々
と現れています。十八年前か
ら日産自動車の救世主として
会長に君臨したカルロス・ゴ
ンが世界各地に豪邸をもつ守
銭奴であったこと、その日産
と提携しているルノーの筆頭
株主フランス政府を率いるマ
クロン首相も地球温暖化防止
を口実とした燃料税値上げ反
対のデモ隊に屈服せざるを得
なくなつたこと、巴から独立
をぶち上げているイギリス保
守党のメイ首相も民族融和と
欧州統合を支持する独立反対
派の反撃で首相の座も危うく
なつていふことなどを眺めて
いると、何が正義で誰が救世
主であるか、道理ある未来を
展望し、まっとうな政策や誠
実なリーダーが誰かを見極め

るには、相当な眼力と見識、
判断力と行動力が求められて
いると痛感せずにはいられま
せん。

いま北海道の一角にあつて
最も本州に近い函館平和委員
会として危惧されることは、
今年八月から実施されている
予定の日米合同演習とそれに
伴う事故の発生です。昨年は
胆振東部地震の発生で中止と
なつたものの、今年も十勝の
帯広市の市街地に隣接する旧
帯広空港がオスプレイの補給
基地として運用される計画で
す。道南にも三沢基地経由で
オスプレイが飛来し、北海道
全域で危険な訓練飛行が行わ
れる可能性もあります。
オスプレイ（魚を食べるワ
シ類でミサゴの意味）は世界
有数の観光地ハワイ州などで
は飛行が禁止され、アメリカ
大統領は決して乗らない機体
です。開発当初から事故が相
次いだ欠陥機で、空飛ぶ棺桶、
未亡人製造機などと呼ばれて

いるほど危険な航空機として有名です。オスプレイの事故率が飛び抜けて高い理由は機体の欠陥だけではありません。最も危険な任務を担う特殊部隊がオスプレイを運用しているからです。特殊部隊は一般市民の住宅や学校などを標的に見立てて超低空飛行したり、あえて夜間や悪天時に空中給油などの危険な訓練を行ったります。我が国最初のオスプレイ事故は、二〇一六年十月十三日の夜、空中給油中に外れたホースがローターを損傷して辺野古の海岸に不時着（墜落）しています。空中給油は危険度が極めて高い綱渡りのような作戦ですが、遠方にある目標を殴り込み攻撃するうえで欠かせないものです。同じく昨年十二月六日未明にも高知県室戸岬沖で岩国基地所属のF130給油機とF18戦闘攻撃機が空中給油中に接触して墜落し、六名の米兵が行方不明となっています。こ

のことは日本に配備されている特殊部隊が、中東、インド、中国、北朝鮮などの新興軍事大国を威嚇するため、常に運用訓練されていることを意味します。特殊部隊とF130輸送機とオスプレイの三つがそろった基地はこの西太平洋地域で沖縄、日本だけであり、戦時には真っ先に出撃し、逆に最初の反撃目標にもなる危険な場所なのです。現在の日米合同演習では日本の自衛隊を米軍の戦力補完部隊として利用するための訓練を行なっています。北海道での合同演習でも米軍は日米地位協定にもとづいて自衛隊帯広駐屯地に付属する旧帯広空港を活用し、中継基地の防衛兵員や武器の輸送など、自衛隊を米軍支援部隊として利用するための実動訓練を行うものと思われま

す。

今年度の函館平和委員会では、米軍が我がもの顔で日本全土を基地や演習場として使用で

新年交流会

きる根拠法となつて「日米地位協定」の問題点とその改正に向けた学習と議論をはじめ、我が国の平和と正義を見極めるための活動につとめたいと思います。また、道内各地の平和委員会とのネットワークを生かして自衛隊や米軍の訓練を監視し、市民にそ

の実態を知らせ、反対の声をあげてまいります。道民の生活を脅かし、南北朝鮮と平和の動きに冷や水を浴びせる日米合同演習を中止に追い込み、平和で平穏な北海道の生活を取り戻せるよう、ともに頑張りましょう。



1月26日午後2時より、はこだて音鑑二階で2019年函平新年交流会が17人の参加で開かれました。会費による料理に加えて手作りのパン、ケーキ、いなり寿司、漬け物、酒類、ジュースの差し入れがあり、みんなで食する楽しさを味わいました。二週間前に沖縄平和ツアーに参加した徳永みつ子さ

んが、今の沖縄をスライドを使って報告しました。

田中会長の誘いで参加した大学生が若者感覚の思いを率直に語り、皆から期待と激励のあたたかい言葉が寄せられました。

それぞれのトークは、沖縄の話題一色、そして統一地方選挙や参議院選挙が結びとなる話でした。デニー知事の魅力が9頁にわたって雑誌「通販生活」載っていることも紹介されました。

沖縄平和を考えるツアーに参加して

・・・1月8日、12日旅システムツアーに函館平和委員会の会員4人が参加しました。以下感想を寄せてくれました・・・

空にはオスプレイ、海には

土砂 丘には弾薬庫！

倉部 勝子

冬のコートを新千歳空港で脱ぎ替えて、道内から集まった二人の参加者と一路「沖縄」へ。不屈館では瀬長亀次郎さんの民衆と共に闘った「不屈の精神」を学び、私もこの旅でしっかりと沖縄の実態を知り、頑張っている人たちとの連帯の絆を結んでいこうと心に誓いました。

沖縄の現状のレクチャーも受け、次の日からは沖縄平和学習

サポーターの横田さんの案内で、日本国でありながら米軍による事故・事件には手を下せない矛盾だらけの沖縄の実態をあちこ

とで知る事ができました。

辺野古につくろうとしている

新基地は耐用年数200年の最

新鋭の基地、滑走路が二本、普

天間基地にない弾薬庫がすぐそ

ばにある弾薬搭載エリアがつく

られ、272坪の岸壁をもった

軍港もつくられ、まさに、陸、空、海兵隊の米軍のすべての機能をもった最新鋭の基地となります。オスプレイが1000機、

行動に希望を持つことの出来た旅でもありました。

紺碧の海 辺野古が！

鈴木 晴子

沖縄で「子どもたちに基地の苦しみをわたさない！」と日夜奮闘している友人(83才)より、「第一土曜日は座り込み・集会に参加」の様子など、そして時々沖縄の新聞や小冊子を送ってくれていました。

今回基地のことに集中しての旅の企画に誘いをうけて参加しました。

沖縄に着くとすぐに不屈館へ。

今につながる基地問題や沖縄の人々が声を上げる原点、戦後の沖縄で米軍支配と闘った瀬長亀次郎の生き様をしっかりと一人ひとりが学び実践しているのだなと実感しました。

嘉数高台からの普天間基地を見た。街の中に次々と飛び交う飛行訓練。基地そばの緑が丘保育園訪問し園長さんの話を聞く。

「ドン」という衝撃音で円筒状の物体が落下、あと50cmずれて



50ステレス戦闘機も配備されるとのこと。それだけでなく、毎日が騒音と事故の心配が続く中で耐用年数が200年ともなれば、子や孫たちだけでなく未来の子どもたちに米軍基地を残してはいけなないと立ち上がった沖縄県民の思いは当然のことです。

私はこの旅でたくさんさんの沖縄の実態を知ったと共に、日本各地からそして海外からの連帯の

いたら子どもたちが遊ぶ園庭。米軍は物体がオスプレイ⁵³の装置のカバーであることを認めましたが飛行中の同機からの落下を否定。立ち入り調査もしない。原因究明をはじめ園上空の飛行禁止を園と保護者が強くもとめて署名(約14万筆)要請行動をする。園にはたくさんの誹謗中傷の電話がかかっていた今でもヘリやオスプレイだけでなく戦闘機まで上空を飛んでいる。

辺野古の海、大浦湾へグラスポーツに乗り、紺碧の海底をのぞく。珊瑚礁群、優雅に泳いでいる魚たちが肉眼でもしっかり見える透明度(感)。アオサンゴ群が30^{メートル}以上に達し、世界的にも貴重な群落とのこと。監視船にチエックスながら感激のひとつでした。しかしこの海へ琉球セメント船橋から運ばれる土砂を投入するのを目にして、喜んではられない。

11日午前、キャンプシユワ

ブゲート前の座り込み。雨の降りしきる中「上下雨ガツパ準備OK!」警備員への思いと自分の決意を態度・行動で!と望みましたが、残念ながら(?)土砂は運ばれない!ということとなり、交流集会が開かれた。「自然、人権を守る、憲法を守る」日本中そして世界中のたたかいであることとを、支援に來た日韓の青年、濟州島の少年少女、座り込みに参加した人々と確認し合った。

沖縄平和を考えるツアーに参加して

金城 小枝子

現地を見る、この一言につきます。沖縄の人々も「沖縄に來て現状を見て、そして応援して下さい。沖縄も本土と同じくなってきた。安倍の自公政権を倒さなければ真の平和はこない」のことに全くそのとおりだと思つ。

「不屈館」「チヒチリガマ」

「シムクガマ」「座喜味城址」そして「大浦湾」ではボートに乗って世界一大きいサンゴ、珍しい魚を観る。このきれいな海を埋めさせてはダメ。

「高江」で伊佐村議と歩き、頭上を5機のオスプレイ、5分も経たず5機、毎日これが高江の姿です。「キャンプシユアブ」ゲート前の座り込み。今日は土砂のトラックが來ない日とのこと。テント村で集會。赤嶺衆議員も応援に。夜「県民会議連絡会訪問」事務長の金城徹さんが約束の時間に来られず電話にもせず連絡会の事務所に行ったら鍵。刻々の変化が沖縄の様子なのでした。

元気をもらいました

徳永 みつ子

沖縄のことを考えるといつも表現の難しい感情が心にわきます。沖縄に降り立つと素晴らしい胡蝶蘭の花とこちよいい風と青い空に迎えられて

一気に緊張から解放されそうです。すぐ不屈館へ。瀬長亀次郎さんの大きな顔写真を見ていると、のりの良い「カメジロウ、カメジロー」のコールが頭の中に流れて、なんとなく勇気がわいてくるのが不思議です。でも怒りが押さえられない現実の数々! 頭上を軍用機オスプレイが轟音と共に飛び交う日々、本当に許されない思いで一杯になりました。グラスポートから観た数々の美しいサンゴ群や魚たち、マングローブの公園、心が静まるような曲線を見せる座喜味城跡、トルコブルーの海を渡る白い橋など景色も堪能しました。「憲法」を生活に生かしてたたかうという平和ガイドの横田さんや瀬長和男(瀬長亀次郎の孫)さんそして高江の村議伊佐さんの言葉に力強く息の長い闘いの力を感じました。共にたたかう元氣力を注入されました。